

成田市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体第4回会議 議事録

1 開催日時

平成29年11月20日（月） 午後2時から午後4時

2 開催場所

成田市役所第2応接室

3 出席者

（委員）

西田委員、小林委員、佐藤委員、大木（和）委員、西村委員、宮崎委員、渡邊委員、石井委員、大木（み）委員、高橋委員、沓掛委員、山根委員、野平委員、北村委員、以上14名（欠席：小山委員（林氏代理出席）以上1名）

（事務局）

高田福祉部長

三橋介護保険課長

加瀬林高齢者福祉課長、平岡係長、渡未副主幹、松村主事

社会福祉協議会地域福祉係武田係長

成田市西部南地域包括支援センター大麻管理者

小野生活支援コーディネーター

4 会議次第

1 開会

2 福祉部長あいさつ

3 議題

（1）生活支援コーディネーター活動報告と今後の活動、提案

（2）高齢者福祉課からの報告

・地域ケア会議について

・市民支え合いフォーラムの開催について

・第7期成田市介護保険事業計画（素案）について

（3）意見交換

・今後、協議体で取り組むこと（具体的な方針の決定）

4 その他

5 閉会

●開会

会議成立。ケアマネ連絡会の小山氏が欠席につき、林様に出席していただいている。本日、傍聴者はいないことを報告。

●福祉部長挨拶

委員の皆様方におかれましては、ご多忙の中、ご出席いただき誠にありがとうございます。第4回成田市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体会議の開会にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。

平成27年度から29年度までを事業年度とする「第6期介護保険計画」においては、地域包括ケアの推進に向け、推進の中核となる地域包括支援センターの機能強化や地域密着型サービスの整備など、様々な施策に取り組んでまいりました。

しかしながら、昨今の急速な高齢者人口の増加に加え、地域による介護サービス事業所の偏在が見られるようになったことから、今後は、生活実態や地域の実情に適した日常生活圏域の見直しが必要になってまいります。

本日は、平成30年度から3年間を事業年度とする新たな「第7期介護保険事業計画」の素案がまとまったことから、日常生活圏域の見直しや地域包括支援センターの増設、第2層生活支援コーディネーターの配置を含めた本市の方針について、この後ご説明させていただきます。また、市民支え合いフォーラムの開催や生活支援に関する提案事項もございますので、委員の皆様方の忌憚のないご意見を伺いたいと存じます。限られた時間ではございますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

●委員長挨拶

本協議体については、方向性等含めわかりづらい部分もあったかと思うが、前回で整理されてきたかと思う。協議体の活動として、実績として残せるようなものを作っていきたい。

●生活支援コーディネーター活動報告と今後の活動、提案（小野生活支援コーディネーター）

買い物支援について。百歳体操に参加している方に聞き取りをした。お総菜の話をした際、参加者は元気な人が多いのでお惣菜を買う人は少ない。しかし、移動販売利用者にとっては総菜の購入がとても多い。こういったところからも詳しい買い物事情を知る必要があると考え、買い物事情のアンケートの実施を検討、提案したい。アンケート案（資料1）を作成したので、委員の方にご意見をいただきたい。次に他市の情報について、資料2を参照。千葉市と白井市では、社会福祉法人が送迎の空き時間を利用し、バスと運転手、ガソリンを提供し、3時間程度の買い物支援を行っている。地域のボランティアが買い物協力員として同行。評判はよく、買い物支援だけでなく小さな居場所づくりにもなっていると担当者の話があった。成田市では小林委員と山根委員の法人が買い物支援を行っているとのことなので、委員より詳しく話を聞きたい。

●委員

社会福祉法人なのはな会で行っている買い物支援について。補助金はもらっていない。法人負担が年 17 万円程度の見込み。H29 年 10 月から開始し、週に 1 回行っている。誰でも使えるようにしていて、最初は 6 名の利用があった。午後 1 時に出発し、スーパーのナリタヤとヤックスへ行き、3 時に帰る。バス停を 3 か所設けている。法人で非常勤として働いている方が運転手として、1 回につき 2 時間運転をしている。介助者が乗るようなことはしていない。法人として地域の世帯が 250 前後と多くないため、この買い物支援ができていると思う。例えばニュータウンでやるとなると世帯数も多く難しいと思われる。ナリタヤや、ヤックスで日用品が揃うところもやりやすい点。社会福祉法人は地域貢献をなさいと国から言われている。今後も、1 人でも利用者がいれば継続していく。

●委員

風の村は県内に 6 拠点あり、成田は準備エリアの位置づけ。成田では買い物バスを行っていないが、6 拠点においては、10 日に 1 回買い物バス、サロンの開催をしている。高齢者、障がい者、子ども、生活困窮者を対象としている。6 拠点の中の佐倉市での活動例について。地域福祉積立金で行っているため補助金はなし。デイやショートステイで使っている事業所の車で、職員が送迎を行っている。生活クラブのボランティア組合員がいて、民生委員がチラシの配布をしてくれている。10 時～13 時に行っている。

風の村なりたではデイサービス、居宅介護支援事業所、訪問介護、定期巡回を行っている。前回の協議体で聞いたナリタヤの移動販売について、事業所のケアマネに話をしたところ、2 件の方に提案をして、現在利用している。利用者が買う物を選べる点が良い。近所の人も集まってきたり、これらが自立支援につながると考える。成田では月 1 回サロンをしている。来年の 4 月から買い物バスを始めようと準備している。

○生活支援コーディネーター

他市でも買い物支援事業が始まっている。成田市にある法人にも情報提供をして、買い物支援事業が広まっていけば良いと思う。買い物支援事業について千葉市と白井市に話を聞くと、法人だけで成立できるものではなく、買い物協力員として地域住民の協力も必要とのこと。

他市の協議体についての情報収集について。四街道市の協議体が主体で開催したワークショップの資料（資料 3）。朗読劇を実演。協議体の全員と市の職員と一緒に朗読劇を考え行ったというところが良い。ワークショップの参加住民も熱く意見交換をしていた。協議体の在り方も様々であることが伺えた。白井市ふれあい会議（資料 4）について。買い物支援を市全体に広めるために、KJ 法で協議体に意見を出してもらったという白井市の第 1 層協議体の報告も掲載

されている。白井市の買い物支援では、食料品だけでなく洋服も買うようになり好評であった。現在は 2 地区での展開だが、協議体と共に広げていきたいと考えているとの話。

居場所づくりについて。子ども食堂（資料 5）について。三里塚の子ども食堂に見学に行った。『子供からお年寄りまで、みんなでふれあえる場所。ありがたいの感謝の気持ちで、みんなで楽しくおしゃべりしましょう』というコンセプトで行っている。ここでは高齢者と一緒におにぎりを作る。おにぎりを作れないこどもに高齢者が作り方を教えていて、子ども食堂という名前だが高齢者の出番があり、いきいきした顔が見られる。空き家活用に関してはこれから時間をかけてやっていく。市街地と市街地以外の違い（資料 6）より、市街地には居場所そのままのベースになるところがないことがわかる。居場所の立ち上げ等準備講座（資料 7）について。白井市で行われているおやじサロンは、居酒屋の休憩時間を使いサロンを開き、男性の地域デビューのきっかけになった。現在 3 か所に増えているとのこと。来月 12 月 8 日におやじサロンの寄本氏を講師に講座を開く。

介護支援ボランティア（資料 8）の拡大について提案。ボランティア活動によってポイントが貯まり、年間最大 5,000 円と交換できるが、施設内でのボランティア活動に限られている。施設だけでなく地域での活動でもポイントが貯まれば、地域での活動資金にできたり、地域活動のプラスになるのではないかと考え、拡大を提案したい。

●委員

小野生活支援コーディネーターから社会資源の調査の買い物難民について、アンケートの素案も踏まえて質問等はあるか。

●委員

買い物難民に関してだが、市で行っているオンデマンド交通について、頂く資料等を見ると数は増えていないように思われるがどうなのか。

○事務局

オンデマンド交通は台数の制限がある。定期的に継続した利用でオンデマンドを主としてやるのは難しい。

●委員

成田市内で買い物支援をやっていることは小林委員のところだけなのか。

○生活支援コーディネーター

情報として持っているのは小林委員のところである。

●委員

スーパーせいみやがやっているが住所が芝山なので成田市ではない。

●委員

各団体で協議体の話は出るか。ケアマネさんに伝えてもらって 2 件の利用に結びついたという話があったが、ケアマネ連絡会でそういう話が出たりするのか。

●委員

ケアマネ連絡会では出ていない。

●委員

社協でも出ていない。

●委員

生協とのタイアップはどうか？買わなくても 2 週間に 1 回来てくれたりするが。

○生活支援コーディネーター

100 歳体操参加者でも生協を利用している人は多い。だが、それより上の世代は 1~2 週間前の申し込んだものを覚えていなかったりもする。同じもの買っている状況もある。生協もいいが、使い方が難しいところもある。

●委員

自分から外に出て買い物をしたいという気持ちがあるのかと思う。

○生活支援コーディネーター

今はできるだけ自分で買い物するようにしたいが、今後、移動販売や法人の買い物支援もあれば助かる人もいるという声がある。

●委員

そういった声の拾い上げや収集について、生活支援コーディネーターより提案のあったアンケートの活用があるかと思う。委員の皆様には、アンケートの内容や、どういう活用方法があるか、アンケートを実施する、しない等、精査をしてもらいたい。2~3 分各自で考えてもらい、その後 5 分ほど同じ机の人と話をしてもらおう。

～各自精査、話し合い後～

●委員

アンケートをやることは良いと思う。項目が多いので、問9「不便を感じている・いない」が大事だと思うので、この項目からでもいいのではないかな。

●委員

年齢の欄が64歳まで、65歳以上だけの区分でなく、いわゆる超高齢の枠を設けてもいいかと思う。

●委員

年代で区切るというのもひとつの方法としてある。

●委員

アンケートの実施は良いと思う。障がいの人等も対象と考えると年代の分け方はどうなのだろうか。

●委員

対象者には元気な人も多いのかと思う。生協やネットを使っている人もいる。いろんなことをやっている中で、そこにひっかからないような人が重要。

●委員

本当に困っている人を抽出、引き上げることが大事ではないかな。

●委員

実際に、買い物に困っているから総合事業を使いたいという人は比較的少ない。5年後という仕組みづくりが必要とは思いますが、包括でもアンケートでまわったりしても、なんとかできている人が多い。アンケートが届かないような人が困っている人なのではないかな。

●委員

アンケートがきても興味を持たないような人や、どうしたらいいかわからない人が本当に困っている方だと思う。

●委員

アンケートの取り方はこれから整理していく。アンケートの渡し方でも、家族が回答してしまうことも考えられる。民生委員の方が読んで聞き取りして、というやり方も考えられるかな。

●委員

よく読んであげる必要がある。

●委員

ニーズの収集という点でもアンケートの実施は良いと思う。スーパーが遠いような地区から始めるのが良いのではないかな。

●委員

アンケートの実施は良いかと思う。75歳は自身で運転できたり、まだまだ元気な人が多い。80歳以上で免許返納になっているような人は移動手段がなく買い物に困っている。食料品の移動販売はなかなかないので必要だと思う。

●委員

アンケートの実施は良いと思う。ただ、アンケートを行う場合、内容についてよく説明する必要がある。オンデマンド、配食サービス等のサービスを知らない人は多い。説明が書かれたようなものがあればいいのではないかな。

●委員

長すぎない説明書のようなものがあるといいのではないかな。

●委員

買い物事情は各家庭によって違う。大部分を満足させるのは大変なこと。アンケートの範囲について地域を限定するやり方もあるのではないかな。

●委員

アンケートの使い方を検討する必要がある。

●委員

どういう対象にどういう風にアンケートをとるか。回覧をしても家族が次に回してしまい、高齢者自身が把握していないこともある。アンケートを行い、最終的にどうするのか。移動販売を行うのか。

●委員

例えば市のホームページに掲載して、この地域で困っているという情報を提供し、事業者を募る方法もあるのかと思うが、検討は必要。

●委員

民生委員が入るしかないのではないかと。

●委員

このアンケートを行うと、「あればいい」がいっぱい出てくるのではないかと。そこに価格やサービスを入れるとわずかな人しか残らないかもしれない。絞った内容にして、本当に必要な人のためにできるように進めていくのが良いのではないかと。

●委員

民生委員の方をお願いした場合、民生委員としての業務量の負担はどうか。

●委員

民生委員の基本的な活動は困っている人のところへ行くこと。

●委員

都市部と田舎では実態が違う。現在法人で行っている買い物支援は、食事の確保だけでなく、地域での楽しい暮らしにつながると考えている。友達と一緒に出かけたり、数日前から買い物を楽しみにして生きがいとなったり、それらが地域づくりになる。本当に歩けない人はデイサービスの利用や宅配を利用もある。高齢者が地域で日常生活を続けられるように買い物支援をしていきたい。利用者は毎回来ているわけではない。アンケートについては、家族や買い物回数を省いて、困っている・困っていないからの設問でいいのではないかと。民生委員にまわってもらって、アンケートの協力をお願いする方法になるのではないかと。

●委員

現在の利用者は何歳くらいの人なのか。

●委員

75～80代くらい。全員女性。家族と暮らしていても利用している方がいる。自分の選んだ食材で料理したいという気持ちがあるのではないかと。

●委員

けがをして買い物に困っているような人もいる。

○事務局

問13について、その方の身体の状態やライフスタイルによって違いはあると思うが、地域毎にどういうニーズがあるか、市として把握していきたい。自分

で買い物したいというニーズが多ければ、足の確保といったところを協議体で検討していく。他市の事例として、移動手段の確保が必要ということで広く募集をしたら葬儀屋が手を挙げたということもある。いろんな方に地域の問題を考えられることをやってもらいたい。そして協議体として地域に発信していきたい。

●委員

協議体として発信していくために検討材料としてアンケートをとっていただければいい。

●委員

読売新聞の記事で買い物難民の記事があった。介護保険の中で、650円程の負担で使えるようなものを考えているというものがあつた。国の制度として追いついて、事業所が採算とれるよう整備されていけばいいと思う。

●委員

項目や調査方法は検討していく。協議体での話を各団体でも情報共有してもらいたい。

小野生活支援コーディネーターより提案のあつたボランティアの拡大については、いかがか。

●委員

富里市ではボランティア手帳が12月に出来上がる予定。協力施設だけでなく、こういったボランティアでもいいのではないか。現在の介護支援ボランティアとの兼ね合いもあるが、健康づくりに取り組んだ、やったという証明、認めてもらうことが大事なのではないか。成田でも手帳を作成できればいいと思う。

●委員

市の取り組みとしてはいかがか。

○事務局

前回の協議体が終わった後に大木委員から話をいただいていた。手帳については健康増進課に話をしている。介護支援ボランティアにすぐ連動させるというのは検討が必要だが、今後検討していければと思う。

○生活支援コーディネーター

居場所づくりを投げかけても公的な活動資金はない。ボランティアの活動で点数がついて、それが年間最大で一人5,000円になる。それを活動資金にでき

ればいいと考えている。

●委員

介護支援ボランティアでのポイントは介護保険料に充てられるもの。ボラ連の助成金では、5人以上のグループを組んでもらい、年に8回以上活動してもらうと、グループに5,000円。プラス1人500円。

●委員

ボランティア手帳も含めて、リンクさせていきたい。

●委員

子ども食堂に関連した情報提供。義理の兄が船橋ららぽーとの近くで子ども食堂を始めた。そこでは子ども向けに認知症サポーター養成講座を行ったり、認知症の方への対応を学んでいる。商店街の路地にある喫茶店を使っていて、子供がぷらっと寄ってジュースを飲んで帰る姿がある。子ども食堂と高齢者をつなげられるようにできれば、と民生委員の積極的な働きかけがあつてできた。

100歳体操をデイで勧めるのはどうなのか。

○事務局

プログラムのメニューとして、体操がその方の自立支援に資するということならば検討しても良いと思うが、本来、100歳体操は地域づくりを目的として、住民主体で地域の仲間と取り組む体操である。

○事務局

地域ケア会議の概要について説明（資料：「地域ケア会議の概要」参照）。地域ケア会議では個別事例の検討を通じて、地域の課題を抽出し、課題解決の仕組みづくりや地域資源の開発に繋げていく。

各地域包括の実績については資料参照。実際に地域ケア会議の運営をしている西部南包括支援センターの大塚管理者から地域ケア会議の取り組み内容について説明をしてもらう。

○事務局

地域ケア会議の概要について。（資料：「地域ケア」参照）西部南での取り組みの紹介。個別ケア会議と小地域ケア会議を行っている。取り組みの実際として個別ケア会議と地域ケア会議の一例を紹介。他職種の人が様々な立場の人から意見を出してもらえる会議にしよう意識している。個別ケア会議の課題としては医療職の参加が少ないことや、ケアマネジャーの依頼が少ないことがある。地域ケア会議の様子について資料の写真を使いながら説明。民生委員の方

とのかかわりについて。H26年に、民生委員が行う独居高齢者ふれあい訪問に同行し、独居高齢者一人ひとりと顔を合わせることができ、包括の周知もできた。また、民生委員との信頼関係の構築や地域ケア会議の協力体制もできた。支援について同行してもらえる。支援の経過や対応結果については必ず報告するようにしている。民生委員の声かけもあり、日常生活圏域での地域ケア会議には自治会役員の方が参加してくれている。

○事務局

第7期成田市介護保険事業計画について。3年毎に介護保険事業計画を作成し、来年度から3年間を第7期としている。計画素案について抜粋して紹介。

- ・27ページ 計画の基本目標「1.支え合うまちづくり」について。
- ・34、35ページ 日常生活圏域の設定について。圏域の見直し、包括の増設について説明。
- ・37ページ 基本目標毎の重点施策について
- ・46ページ 生活支援サービスの体制整備について。来年の10月を目途に第2層小野生活支援コーディネーターを成田地区に設置予定。
- ・68ページ 介護予防・生活支援サービス事業について。総合事業の緩和型サービスの成熟。住民主体の生活支援サービスの推進について。

●委員

市民向けフォーラムの開催案について。今後、開催をしたいと考えている。趣旨は資料（市民向けフォーラムについて（案））参照。市民の方に向け、助け合いの仕組みの創出について考える機会とし、市民に啓発していけるような内容で進めていきたい。そこから発展した取り組みにしていければ。日時内容未定だが、案として、協議体の取り組みの紹介や啓発内容、事例報告等を考えている。フォーラムの時間、時期、内容等を次回の検討内容としたい。

●委員

現在、成田市にケアマネジャーは何名ほどいるのか。

●委員

ケアマネジャー連絡会の会員は市外事業所の人もあるが、130～140名ほどかと。成田市の方にサービス提供をするという人数はそれくらいかと思う。

●委員

先日、サービス付き高齢者住宅を訪問した。その際、小規模多機能について、ケアマネジャーが知らないので、機会があれば小規模多機能について説明してほしいと意見があった。

○事務局

成田市には現在 5 か所の小規模多機能がある。小規模多機能を利用するようになるとケアマネジャーの手を離れてしまうので、ケアマネジャーの方から小規模多機能を勧めるのは難しいかと思われる。

●委員

小規模多機能は住民票を移してからどれくらいで使えるのか。

○事務局

地域密着型なので成田市の住所が必要だが、住民票のある市町村から依頼があれば、市町村間で調整をして 10 日～2 週間くらいで利用できる。

●委員

衆議院選挙があったが、希望があっても選挙に行けない人がいる。買い物難民プラスアルファで考えていけないか。国では要介護 5 の人は郵送で投票できる。ただ、実際は要支援の人でも投票が難しい人がいる。

○事務局

国でも緩和の動きはある。ただ、選挙については全国一律のものであるため、市独自というのは難しい。移動投票所を実施している他市の例もある。

●委員

アンケートの話だが、今後どう進めていくのか。

●委員

実施することを前提に、内容を精査していきたい。

○事務局

小野生活支援コーディネーターより、アンケートの素案については、委員の方と協力して作成していきたいとのことであり、今後、委員の皆様にもお声をかけさせていただきたい。

●委員

今回は、アンケートとフォーラムについて詰めていきたい。

次回開催

平成 30 年 2 月 20 日（火）